
召し使いにされました

リモコン(黒)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

召し使いにされました

【Nコード】

N6090Z

【作者名】

リモコン（黒）

【あらすじ】

ああ？ここどこだよ…？え？異世界！？

なんだ、俺を勇者にでも…って召し使いだと！？

ふざけんな！なんでひきこもりの面倒なんて見なきゃいけないんだ！

え？しかも人間じゃない！？

もう、俺にどうしろってんだよ・・・

残念主人公とひきこもりヒロインで送ります。

始まりは自分で選びました。(前書き)

はい。駄作でございます。

自分なりに頑張っていました。暇つぶしじゃないよ!?

更新は亀ですが、良かったら見てやってくれると結構喜んだりしちゃいます。

始まりは自分で選びました。

「ねえ、何か面白いことないの？」

「そうだな、俺を解放してくれたら語ってもいいぞ。」

「……じゃあ、いい。」

暗い部屋で鳴り響く、声優にでもなれそうなかわいらしい声が鳴り響く。

真っ暗な光さえ届かないような場所に俺は拉致られてしまいました、まる。

「なあ、そろそろこの縄、解いてくれないか？」

そう俺が語りかけると、

この（見た目だけは）かわいらしい中学生ぐらいの女の子がつぶやく

「……つまんない。」

あーもう！！俺は縛られる趣味はないっての！！！！

・・・はあ、なんでこんなことになってしまったのか、

とりあえず状況を整理してみよう

俺は15歳、高校一年生だ。いや、高校一年生なるはずだった。

周りの野郎たちとの受験に勝ち、やっと入れた夢の学校だ。

なぜ夢の学校かって？

それはなっ…！！

超スカート短いんだよっ！！！！

おまえ、階段とかで座っててみ？想像するだけでテンションあがる

ぜ？

え？変態？なんともいえ！ふははははっ！

それにしても中学校じゃスカートはすごく長かった。

パンチラ？階段がすごく急で突然風が起こったとしてもあり得んわっ！！

で、だ。

中学校では彼女もできず、男たちの熱い友情に囲まれてきたわけなんだが・・・

この高校で彼女を作る、それがこの学校での目標だった。

それなのに・・・事件はあの時起こった・・・

「やあ信、今日から夢の高校へ行く気分はどうだい？」

そう言いながら声をかけてくれるのは変態で有名な親友の幸太。

しかしこいつはなぜかモデル。なぜ？俺と違ってイケメンだからさ！

「なんだ幸太か…お前は受かったのか？」

「残念ながら（笑）翔がうらやましいよ…」

でもあそこ、偏差値65のくせに規則ゆるいよね…

風紀委員仕事すぎでしょ、もちろん悪い意味で。」

「まったくだ。俺も風紀委員になろうかな！」

何て他愛もない話しをしていた、その時だった。

「ねえ、あれ、なにっ…?!？」

「……ああ、俺もさっきから見えてる、

てっきり俺の頭がおかしくなったのかと思っていたが、そうじゃないらしいな…」

そしてなぜか引っ張られる。」

そう、先からあの黒い窓みたいなのに超引っ張られてる。

とても黒い、ブラックホールを思い出させる色だ。

でも、これって多分テンプレだよなっ!!

あれに引っ張られると王様に呼ばれ、かわいい女の子とむっふむふ・

・・!!

「え？引っ張られてるの？僕は全然ないんだけど……」

「そうか、お前も飛び込んだほうがいいぞ？」

あれは幸せの窓だ！きつとな……！

俺は一足先に天国へ行ってくる、幸太も早く来いよ！」

ふははっ!!やったね！これが幸運というやつか!!

ふふふ、ついたらどんな決め台詞を言おうかなあ……

ガツン、ガツガツガツガツ

あれ？痛いんですけど・・・窓あいてなくね？え？割るの？割って行くの？

ガツガツガツガツピキ…パリ…ガシャーン

そこで、俺の意識は途切れた・・・

「……………いつちゃった。」

ああ、どうせ高校も男子校なんだ！

入ってやる！！」

そういつて白い、光り輝く窓の前に幸太がたつと

窓はひとりでに開き、幸太がその中に入るとどこかへ消えてしまっ
た……

始まりは自分で選びました。(後書き)

はい。超展開ですね。

次はすぐあげるつもりです。

ここまでみてくださってありがとうございます。結構うれしかったです。

異世界でした。(前書き)

はい。頭の中で思っていることを文章にするのは難しいですね……

異世界でした。

「う……どこだここ？」

目が覚めるととても暗い所にいました、まる。

じゃねえよ！ここどこだっけ？

下を見るとなぜかふかふかのベットがある。

俺の家はベットじゃないからまず俺の家ということはない。

てか、俺はこんなピンク色のベットは趣味じゃない。

目が慣れてきてまわりを見ると、

いわゆるゴスロリ系のアイテムがちらかっいて、

壁を見るとまるで外国の様な模様をしている。

そしてとりあえず移動しようと思った俺は、

赤ちゃんのようにはいはいで歩きだした。

それにしても臭うな……いったい何なんだこの部屋は？

とにかくこの部屋から急いで出よう。そうしよう……！？

プニユ、と音がたちそうな感触が俺の手のひらに伝わった。

頭がどうにかしてしまいそうなほどの衝撃と、不思議とあふれてくる幸福感が俺を襲った。

これはまるでプリンのように柔らかく、それでいてゴムのような弾力がある。

これはロマンだ、夢だ、世界の奇跡だ。

ああ、何て素晴らしいものなんだ、こんなものがこの世にあったのか…

「これは幸太の奴にも教えてやらないとだめだな…

ふっふっふ、っふははははブハアッ！！！」

その時、俺の顔に衝撃が走った。

何者かに叩かれた様な衝撃だ。

「いったい何しやる!!」

「それはこっちのセリフだよ……!!」

声のするほうへと顔を向けると、そこには美少女がいた。

白い髪は羽のように美しく、恐ろしいまでに顔も整っている。

え、やべえよ、今までクラスでかわいい人とか見て、ああ、いいな、とかいうレベルじゃねえよ。

これはやばい、ドキドキがおさまらない。

ああ、どうしよう、俺この少女の胸をさわブハアッ！！

「何黙ってるのかな、この変態さん？」

「すみませんでした。事故なんです。触る気はなかったんです。」

とりあえず謝っておいた。通報だけはされたくない。

「……はあ、姿は変わったけど、中身は全然変わってないんだね。」

「え？どこかで会ったことあったっけ？」

「……なんでもないっ！！」

うーん、不思議系女子だ。こんなに可愛い子なら忘れるはずないんだが……

「そういえば、ここは一体どこなんだ！？」

俺は確か、学校に……行く途中で……！！
窓に吸い込まれたんだ！」

そう、ガラスが刺さってすごく痛かった。

あんなに死をまじかに感じたのは小学生の時に金○をつぶされかけた時以来だぜ……

「あはは……ごめんね、召喚系の魔術はまだうまく扱えなくてね。」

「魔術？召喚？」

「詳しい話は後にして、ご飯でも食べようよ。お腹、すいてるでしょ？」

確かにお腹はすいた。うん、状況を整理するにもちょうどいいな。

「ほら、こっちだよ。」

と、少女が手招きをすると、

今までは暗くてよく見えなかったが、良く見ると大きな扉があった。

そこから出ると俺は衝撃に走らされた。

まず、扉をくぐると見えたのは端が見えないほど大きな廊下。

次に、窓から見える大きな町、それも西洋風だ。

最後にすぐ隣に城のような建物がある。

いや、隣じゃない、良く見るとこの建物のともつながつている

いったいどうなってやがる……

「なにしてるの？早くいこつ。」

高そうな芸術品を横切って歩くこと2分。

そこはなぜか和風の小さな部屋だった。

「ふう、相変わらず大きいね、この家。

ごはんにしよっか。」

そう少女が言うと、突然目の前に御馳走が現れた。

「……………!!」

驚いた、しかし少女が普通に食べているところを見ると、これが普通なのだろう。

とにかくお腹がすいた。食べよう。

食事が半分を過ぎたあたりで、俺は切り出した。

「……………あんた何者だ？来たばかりがここが日本じゃないことぐらいわかる。」

「あたりだよ、ここは君がいた世界とは違う世界。いわゆる異世界って奴だね。

私の名前はハルト・キュ・リスナ。呼び方はリスナでいいよ。」

「……………」

「あれ？驚かないの？やっぱり翔は流石

「ええええええっ!？」

何…だと…ここは異世界だったのか!？

異世界でした。(後書き)

よくわかりません。すみません。

次回は説明回にします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6090z/>

召し使いにされました

2011年12月23日06時53分発行